

アジアから西へ感染は広がっていき、今やヨーロッパがパンデミックの中心地になってしまった。皮肉なことに中国の提唱する「一帯一路」が示しているように・・・
3月11日のゼミは、萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第5章「新自由主義的景気循環の論理」を小野さんが報告のところ欠席のため、高田が報告レジュメを代読しました。第5章は1991年から2007年までのアメリカの金融政策を論じる。銀行業と証券業の兼業を認める政策がすすめられる。銀行は信用創造により架空資本を形成し、さらに銀行貸し付けを証券化する。それにより利ざや収入よりも手数料収入が大きな割合を占め、この非金利型収入はオフバランス収入として銀行利潤率を高くする。また、ベンチャー・キャピタルにより遊休貨幣資本を投資に勧誘し、そこに銀行の信用創造として深く関わるようになる。商業銀行と投資銀行の連携により膨大な架空資本が形成される。また巨大商業銀行と証券会社の戦略的連携は家計による株式投資、投資信託を増加させる。中間層の金融意識の変化により、アメリカ人の3分の2が証券投資をしていた。1990年代後半には消費ブームを起こし、金融資産を増加していく。そして2001年9・11同時多発テロの混乱に対し金融緩和で迅速に対応、新自由主義的政策からのサブプライローンによる住宅購入から住宅価格低下で金融危機へと至る。討論では、金融危機としては2008年恐慌・リーマンショックが最大であるが、1989年のS&Lも影響が大きかった。また同時に日本ではバブル崩壊で1997年の山一証券の破綻・自主廃業、さらに北海道拓殖銀行経営破綻に続く。和歌山ではその前の1996年に阪和銀行が戦後初の業務停止命令でのち解散した。その日の朝、車で阪和銀行へ定期預金預けの道中にラジオで業務停止を聞いてビックリ、支店の前に多くの人が詰め掛けていた。リーマンショックで失業者は出たが、その後金融は復活、そこには国家支援があり、まさに国独資だ。出席は、高島さん、川口さん、大村さんと高田の4名でした。

*この時節、新型コロナ・ウイルスで集まりにくいですが、基本的に開催します。ただし、それぞれの方の出・欠席のご判断は尊重いたします。

*3月25日ゼミは資本論3巻33章の全部か、又は前半のみです。

*「ゼミたより」メール配信開始：メール配信のみ希望の方は連絡ください。

*5月13日ゼミは、MMT理論ランダル・レイ：竹内さんの報告予定。

*次回の会場は、いつもの淀屋橋道修町・アイクルの部屋です。

***** ゼミ日程 *****

3月25日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻33章 信用制度下の通流手段 報告大村さん
4月8日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
萩原伸次郎『世界経済危機と資本論』第6章・第7章 報告：竹内さん
4月22日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻34章 通貨主義・銀行立法 報告者未定
5月13日(水)午後6時半～9時 淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告：L. ランダル・レイ：MMT理論について 報告竹内さん
その後 6/10, 6/24 (アイクルの部屋) 7/8, 7/22, 9/9, 9/23